

聖霊降臨第 16 主日礼拝説教要旨(9 月 21 日)
『宣教旅行の恵み』 使徒言行録 18:1-11 中條康仁牧師

本日の御言葉には、パウロがコリントの町で励んだ福音宣教の様子が記されています。この大商業都市に「1年6か月の間」留まったとありますが(11節)、直前のアテネ伝道を失意のうちに終えたパウロにとって、コリント伝道は一筋縄ではありませんでした。しかし神さまは、たとえ困難な状況にあったとしても、その忠実な働き人に対して、万端の備え・助け(本日の御言葉には「3つの恵み」)をご用意してくださるお方です。

1つ目の恵みは、「同労者の助け」です(1-6節)。パウロはイタリアから移住してきた同胞のユダヤ人夫妻アキラとプリスキラに出会います。信仰深い彼ら(26節)の家に住み込み、交わりをし、共にテント造りを生業としながら、寂しさを感じることなく、むしろ力を得て安息日ごとに会堂で福音を宣べ伝えることができました。また、同じ宣教チームで労していたシラスとテモテが合流したことも、大きな「同労者の助け」となりました。彼らと再会した喜びのみならず、テサロニケ教会の様子をテモテから聞いて、パウロは「励まされた」(Iテサ3:7)のでした。同労者たちの助けによって、パウロは「御言葉を語ることに専念」(5節)することができたのです。

2つ目の恵みは、「宣教の実り」です(7-8節)。福音に敵対するユダヤ人たちの激しい反抗に遭ったパウロですが、会堂隣に住むティティオ・ユストという異邦人回心者の助けがあり、何とか難を逃れることができました。そして更に、会堂管理者クリスポが「一家をあげて主を信じる」(8節)という霊的収穫の実りにも与ることができました。宣教者にとっての最大の喜びは、人々が福音を受け入れ、神さまの家族となり、信仰が豊かに成長されていく姿を共にする、ということではないでしょうか。神さまは豊かな実りを与えることを通して大いに励まされるお方です。

3つ目の恵みは、「神さまからの語りかけ」です(9-11節)。コリントには多くの回心者がいましたが、同時に敵対と反抗の勢力も多数存在していました。困難の中にいるパウロに対して、神さまは幻の中に現れ、「恐れるな」「語り続けよ」(9節)という2つの語りかけをされました。また、「この町にはわたしの民が大勢いるからだ」(10節)という語りかけの目的をも明かされました。この神さまの語りかけは、イエスさまを通して実現された救いの知らせ・福音を待ち望んで受け入れようとする民がコリントの町には大勢存在している、であるからこそ、「あなたは恐れないで黙っていないで福音を語り続けていなさい」、という励ましと愛情に満ちたご命令なのです。

では、「恐れずに語り続ける」ための支えは何でしょうか？それは「わたしがあなたと共にいる」(10節)という神さまご自身の存在です。神さまは、たとえ大変な困難の中にあっても、私たちに御言葉をもって励ましてくださり、私たちと「共にいて」くださいます。また、どうしても恐れによって福音を語ることを止めてしまう内側の弱さ・恐れをも克服してくださるお方なのです。

ですから私たちは、今週も神さまが「共におられる」ことを喜んで感謝しましょう。そして繰り返しますが、神さまはご自身の働きに忠実に献身する者に対して、最善の助け・恵みを備えていてくださいます。同労者の助け、宣教の実り、神さまからの語りかけ…主に信頼して歩む私たちにも神さまからの助け・恵みがあり、今週もまたその後も神さまと共に進みゆく素晴らしい宣教旅行となりますよう祝福をお祈りいたします。